

教師力アップのための ビジネス理論入門 第9回

日本語教師が最低限知っておいたほうがいいビジネスの用語や概念を、日本語教育場面に当てはめて解説します。ビジネス理論を授業に応用して、教師力を磨きましょう。

文○佐々木瑞枝 イラスト○渡辺剛志

今月のテーマ ABC分析を日本語教育に応用する

佐々木瑞枝



武蔵野大学文学部・大学院教授、エコールプランタン日本語教師養成講座講師、日本語ジェンダー学会会長。日本語教育の実践派として知られ、「外国語としての日本語」(講談社)、「日本語教育の教室から」(大修館)など著書多数。また文科省検定中学国語教科書にも書き下ろし文が掲載されている。ホームページ <http://www.nihongonosekai.com/>

ABC分析とは Activity Based Costing

一九八〇年代にハーバード・ビジネススクールのロバート・S・キャプラン(Robert S. Kaplan)とロビン・クーパー(Robin Cooper)が体系化したもので、筆者もビジネススクールで初めてこの用語を耳にしました。ビジネススクールでは、新しいコスト計算手法を取り入れている企業をケーススタディで学びましたが、これは日本語教育にも応用可能であると考えています。「コスト」というと教育と無縁のように思う方も多いと思います。しかし、このABC分析はサービス業でもアクティビティーに分解できるので、従来、原価管理とは無縁とされていた、銀行、病院、自治体などでも取り入れられているのです。



日本語教育での業務を 可視化する

ABC分析で見えてくるもの

- ① 正確なコスト計算が可能になる
- ② 日本語教育活動(準備)と教育や発表(アウトプット)がどう対応しているのかが、明確になる

(例)大学でも日本語学校でも、先生方は授業時間の前に膨大なコピー作業をしますね。講師一人が一日一〇〇枚コピーするとします。

講師の日給が一万円だとします。(たいていの講師は、授業時間以外も授業の準備や授業後の連絡記録などをされていると思います。非常勤講師の場合ですが、これは給料外であることが多いのですが、これが専任講師ですと、給料内の時間となり、コピーに割く時間も給料内と考えます。)

- ① 一人の先生がAクラス用に一〇回、Bクラス用に二〇回、Cクラス用に七〇回コピーしたとすると、ABCでコスト配分を行えば、
- ② Aクラスで先生がコピーに使った時間は一、〇〇〇円、Bクラスでは二、〇〇〇円、Cクラスでは七、〇〇〇円と原価配分(先生がコピーに要した時間)

されます。

実際はコピーは自動でされるので、コピーの時間そのものは大差ないと思いますが、コピーをするために、コピー用の原紙を作成する(イラストを取り込んだり、文章を書いたり、レイアウトしたり)時間、コピー室までの往復やコピーに要する時間なども原価計算されるのです。この②の情報(正確な原価計算)に着目したのが、「コスト割り当ての視点」です。

日本語学校経営者や私立大学の経営者から見るとCクラスの準備に七、〇〇〇円もかかっている↓もつとコピーの枚数を減らすべきではないのか、という視点が出てくるのです。ここではコピーを例に挙げましたが、本来は、学生にテキストを買わせるべきですよね。日本の教育機関ではあまりにコピーをし過ぎると思います。

①の情報(各講師の先生がクラスによって、どれだけコストドライバを消費しているかの情報)に着目したのが、「プロセス視点」の情報といわれます。ここでは、一人の先生がA、B、Cの三クラスを担当していることにしましたが、これを三人の先生と考えると、経営者としては、Aの先生を採用する

グループディスカッション

下記の項目について、あなたの所属する学校の「ABC調査」をしてください。
その調査は、改善できるところを探し出すことにあります。
どんな点を改革すべきだと思いますか。

分析の対象

経営管理、業務管理

1. 顧客管理(受験生について、情報は管理されていますか)
2. マーケティング(受験生が受験しやすいように、効果的に広告宣伝されていますか)
3. 学生管理(学生たちの日本語力は確実に伸びていますか)
4. 苦情管理(学生たちの苦情を吸い上げて、授業や事務運営を改革していますか)
5. 機械・設備等の故障管理(パソコン、教室に備え付けものなど)
6. エネルギー管理(エアコンやエレベーターの使用状況など)

研究、統計

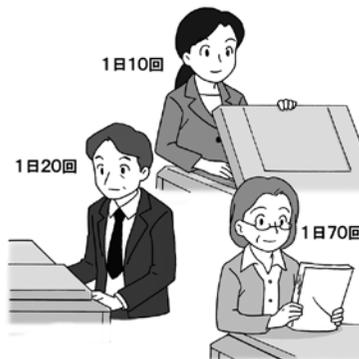
7. 先生方が学会などで発表した回数や、出版物など

受験対策、受験指導

8. 大学や企業で過去に出題された問題(過去問)の、傾向分析



日本の教育機関を一つの「企業体」として考えたとき、活動の一つひとつに無駄がないか、皆さんも周りを見渡してください。そしてその人のサラリの中でその「無駄な時間」がどのくらいを占めているかを考えると、馬鹿にならないものがあります。「コスト削減」という言葉をよく耳にしますが、それは「物を買う予算を減らす」ことよりも、一人ひとりのアクティビティを見直し、無駄な行動を減らすのが「ABC計算」の基本なのです。



ほうがCの先生を採用するよりも、コストだけを考えるより有利、ということになります。ただし、先生の教育をコストだけで見るのは、早計です。ここでは、あくまでもABC分析の例として挙げただけです。